230315_食と農の市民談話会 SEASON3（実践・対話篇）第一回

地域の生産者や事業者さんを応援したい

ー「箕と環」代表・川野元基さんの思いー

本日のスケジュール

19:00～19:15	会の趣旨説明
19:15～19:45	元基さんの話
19:45～	乾杯、料理の説明、懇談
21:30	終了

参加費など

料理代+ワンドリンクは参加費に含まれています。
追加ドリンクは各自、キャッシュオンでお願いします。
なお、参加費のうち500円はUNHCRを通じてウクライナ等の避難民支援のために寄付させて頂きます。

一日も早い戦火の終息を、
心から祈ります。

主催者　ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰　中田哲也
http://food-mileage.jp/

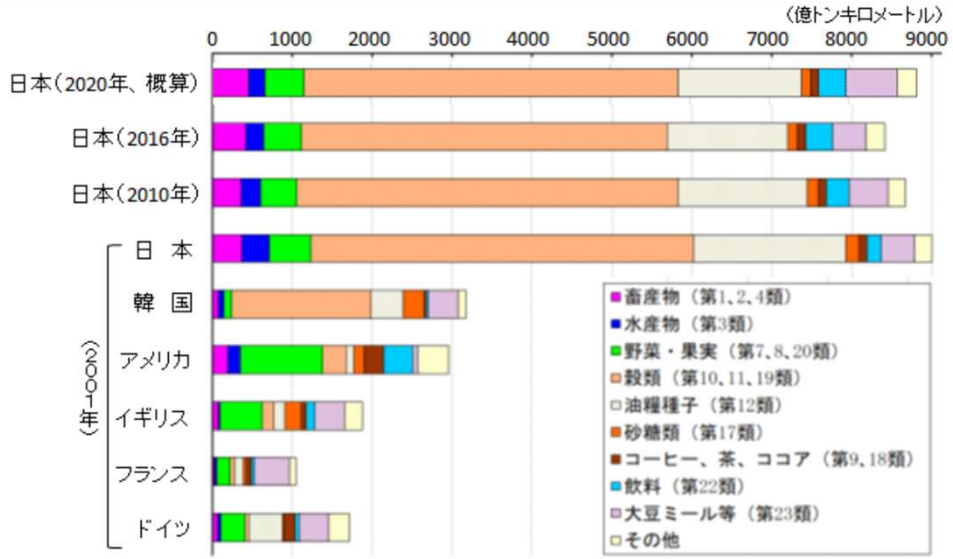
自己紹介

1960年 徳島市生まれ。
1982年3月 岡山大学農学部卒業。2012年 千葉大学大学院園芸学研究科修了
（博士（農学））
1982年4月 農林水産省入省。2001年4月～03年7月の間、農林水産政策研究所に
おいてフード・マイレージに関する研究に従事
2020年3月 定年退職。現在、農林水産省統計部勤務（再任用）

個人的なライフワークとして、フード・マイレージの普及等に取組み

東京・東村山市在住
自宅近くに市民農園の一画（30平米）を借りて農作業の真似事

輸入食料のフード・マイレージの比較（総量、品目別）



注：世界最大は中国（計算していない）。

フード・マイレージから見えてきたもの

○　私たちの食生活は長距離輸送されてきた大量の輸入食料に依存
　⇒　輸送の過程で大量のCO2を排出（自分自身の食生活＝地球環境）

○　食（食卓、消費者）と農（産地、生産者）の間の距離（感）の拡大
　⇒　消費者にとって、食べものは単なる「商品」に
　　食べものを大切にし、生産者を敬い、自然や環境を畏敬する気持ちを喪失

　⇒　多くの問題が発生
　（食料自給率の低下、食に対する不安の高まり、大量の食品ロスの発生、
　　担い手の減少、荒廃農地の増加、「限界集落」の発生）

○　「食と農の距離の短縮」、「顔の見える関係づくり」が重要

「食と農の市民談話会 Season1、2」の開催
（NPO市民科学研究会主催、2021年6月～22年3月、全9回、オンライン）

第１回　2021年6月 8日（火）
「１億農ライフ～都市の私達による食の革命」
小谷あゆみさん（ジャーナリスト、ベジアナ）

第２回　7月13日（火）
「牛力草刈りで、あたたかい復興」
谷さつきさん
（もーもーガーデン、福島・大熊町）

第３回　8月10日（火）
「現場から見える日本の食、農の課題」
榊田みどりさん（農業ジャーナリスト）

第４回　9月7日（火）「農山村に誘われた10年」
大和田順子さん（同志社大学）

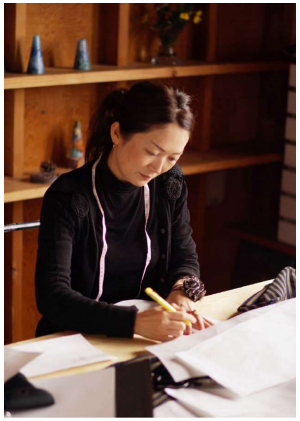
第５回　10月5日（火）
「私が巻き寿司に巻き込んでいるもの」
八幡名子さん（東京・八王子市）

第６回　11月 9日（火）
「食と資本主義の歴史～人も自然も壊さない経済とは?」
平賀 緑さん（京都橘大学）

番外編（放談会）
12月21日（火）

第７回 2022年1月18日(火)
「有機農業の意義と可能性～山間部での取組みから」
浅見 彰宏さん（有機農家、福島・喜多方市）

第８回　2月15日（火）
「自分らしい暮らし＋小さな農業」
赤木 美名子さん
（もんぺ製作所、新潟・上越市）



第９回　3月15日（火）
「川湊の暮らし・港町の仕事」
森 歩（あゆみ）さん（ＪＦ但馬、兵庫・香美町）

「食料危機」

パンデミック、ウクライナ、気候変動等
：しかし日本にとっての最大のリスクは、国内の食料供給基盤のぜい弱化（危機的状況）

国内農産物価格の低迷（農業を続けられない）
↓
生産者の高齢化・後継者不足、荒廃農地の増加
↓
中山間地域等での過疎化の進行（限界集落化）

→ 食料供給基盤のぜい弱化、自給率の低下
→ 国土の強靭性の喪失（災害、鳥獣害）

政府・与党においても、食料安全保障（食料の安定供給）をめぐる動きが活発化
「食料・農業・農村基本法」(1999年)改正も

丸山眞男「日本ファシズムの特質は、農本主義的特質が非常に優位を占めていること」

やはり、個々人（市民）の「気づき」と「主体的な選択」が基本的に重要ではないか。

国内の農業、生産者を「買い支える」ことができるのは、結局、消費者しかいない。

エシカル(Ethical:倫理的)消費

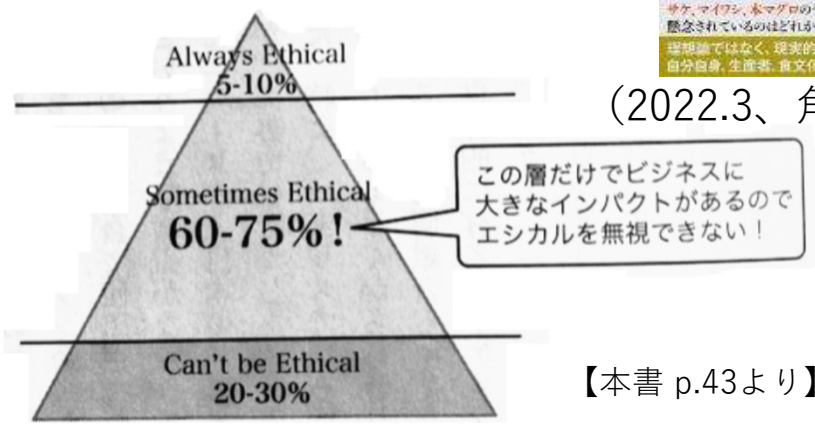
○　日本は利己的(安全)
　⇔ヨーロッパは利他的(人権、環境)

○　先進国・イギリスの取組み

○エシカルを支えるのは普通の人

「ときどきエシカル」が
パワーになる！

（2022.3、角川新書）



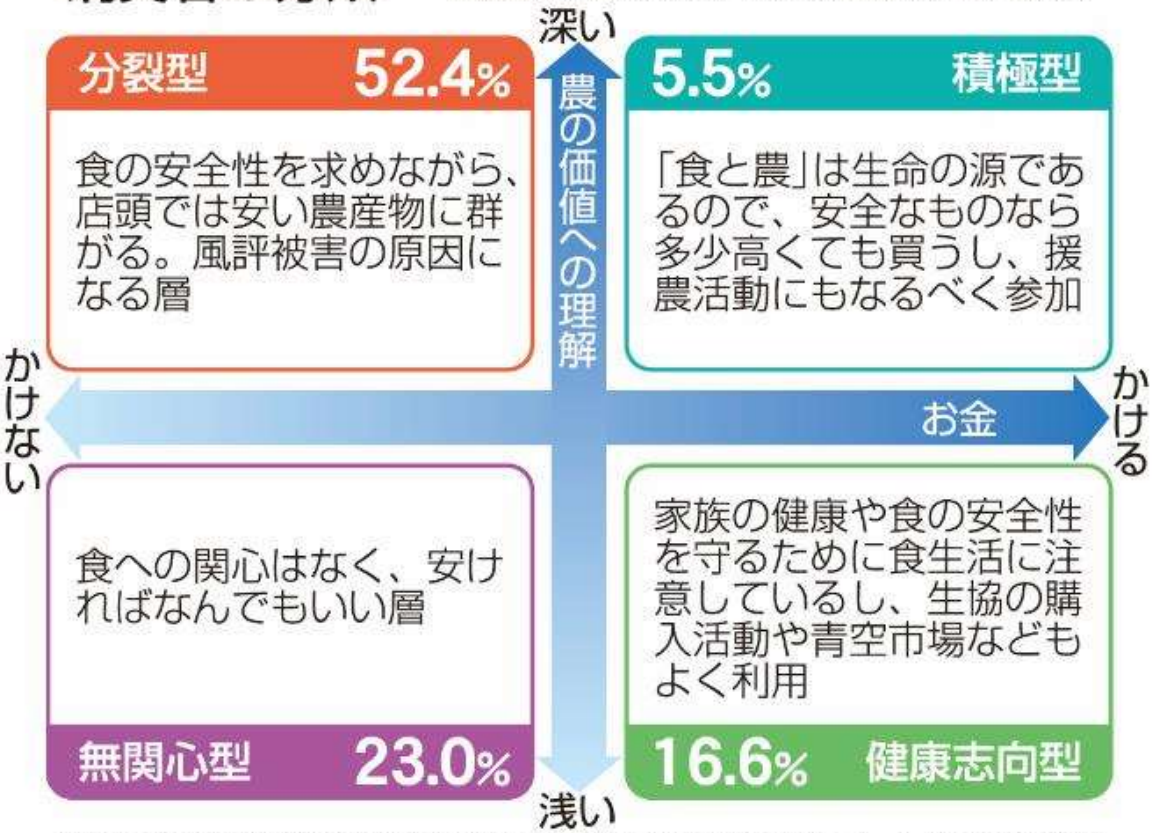
【本書 p.43より】

倫理的な購買に関して消費者は3つのタイプに分けることができ、
"Always Ethical（アクティブな消費者）"が5-10%、
"Sometimes Ethical（それほどアクティブでない消費者）"が60-75%、
"Can't be Ethical"が20-30%と分布されてるという。

エシカルを支えるのは普通の人

消費者の分類

（無回答があるため、合計は100%にならない）



※徳野貞雄教授監修:2003年「福岡市民の食生活に関するアンケート」を参考に作成

（佐藤 弘氏（元西日本新聞社、小農学会事務局）から提供）

食と農の市民談話会 Season３へ

食と農の間の距離を再び縮める
⇒「顔の見える関係づくり」（信頼関係の醸成）が必要

オンラインだけでは不十分
より実践的な、対話を通じた体験の場づくりが重要

- その食べものが、どこで、誰によって、どのように作られたかを想像するきっかけに
- 食べものをめぐる伝統、歴史、文化、風土への気づきと尊重

新潟・上越市大賀(2022.10/1)

食と農の市民談話会 Season３で私が行ってみたいこと

- 生産の現場を訪ねる
- 生産者や事業者の方と交流する
- 農作業等を体験する
- ベランダ等で自分で野菜を育ててみる
- こだわりの食材を使って料理を作ってみる
- 産地や生産者、事業者を応援している飲食店を応援する　etc.

当面、１～２か月に１回位の頻度で開催を予定
（ウェブサイト、SNS等でご連絡します。）